

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 6 年 7 月 1 日

富山県知事

新 田 八 朗 殿

提出者

住 所 富山県高岡市長慶寺530番地

氏 名 協和ファーマケミカル株式会社
代表取締役社長 三吉 勇人

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0766-21-3456

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	協和ファーマケミカル株式会社
事業場の所在地	富山県高岡市長慶寺530番地
計画期間	令和6年4月から令和7年3月

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	医薬品製造業【165】
② 事業の規模	146億30百万円(前年度製造品出荷額)
③ 従業員数	446名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	図1参照

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

図2 参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（余剰汚泥）	その他
	排出量	9,397 t	463 t
	（これまでに実施した取組） 廃水処理施設の曝気槽を表面曝気から散気管方式に変更し、余剰汚泥の削減に取り組んだ。 脱水汚泥の含水率を下げる（脱水機の圧搾時間増）。 凝集剤削減（最適の脱水（フロック状態）で運転）。 新規凝集剤への切り替えを行い、余剰汚泥の削減状況を達成。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（余剰汚泥）	その他
	排出量	9,000 t	394 t
	（今後実施する予定の取組） 引き続き、余剰汚泥の削減に取り組む。 具体的には、バイオ製剤「ベリフォーマー」を用いた余剰汚泥の減容化実機試験を実施の予定。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 1. 金属くずの分別による有価物化 2. 廃プラ類の分別による有価物化 3. 電池類の分別による有価物化
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 引き続き、金属くず、廃プラ類、電池類の分別による有価物化等に取り組む

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） —		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（余剰汚泥）	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	8,927 t	— t
	（これまでに実施した取組） 脱水汚泥の含水率を下げる（脱水機の圧搾時間増） 凝集剤削減（最適の脱水（フロック状態）で運転） 新規凝集剤への切り替えを行い、余剰汚泥の削減状況を達成。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（余剰汚泥）	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	8,550 t	— t
	（今後実施する予定の取組） 引き続き 脱水汚泥の含水率を下げる（脱水機の圧搾時間増） 凝集剤削減（最適の脱水（フロック状態）で運転） 凝集剤を変更し、余剰汚泥の削減に取り組む。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	「別紙の通り」	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	「別紙の通り」		

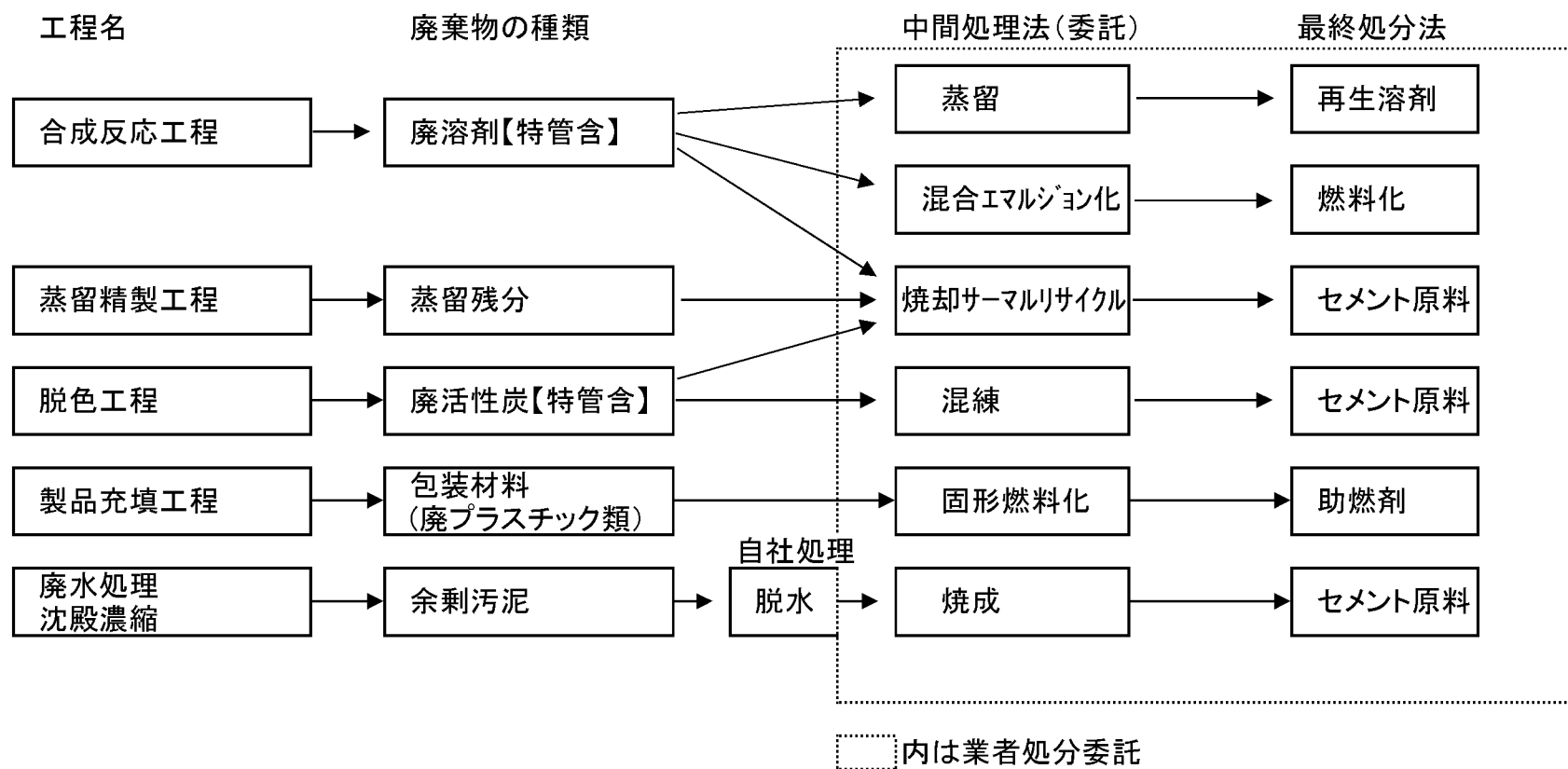
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	「別紙の通り」	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 「別紙の通り」		
※事務処理欄			

備考

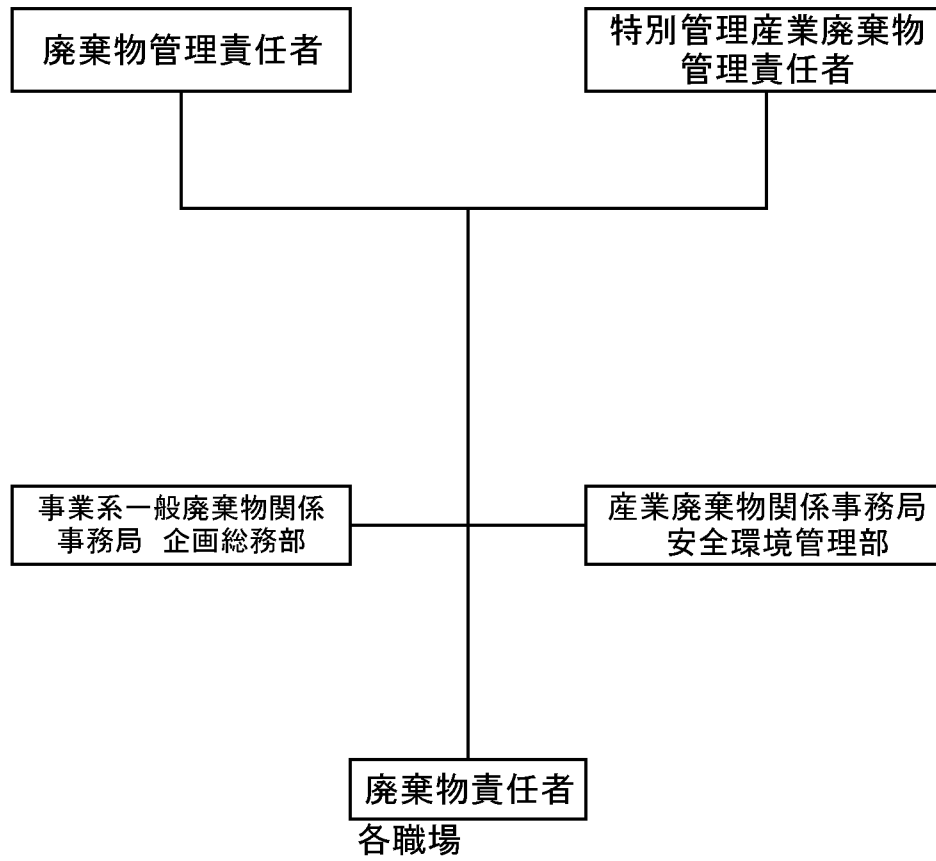
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

廃棄物の発生する工程フロー

図1



管理体制図



別紙

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度(令和5年度)実績】

産廃物の種類	全処理委託量(t)	優良認定業者への 処理委託量(t)	再生利用業者への 処理委託量(t)	認定熱回収業者への 処理委託量(t)	認定熱回収業者 以外の熱回収を行う 業者への処理委託量(t)
汚泥(余剰汚泥)	469.85	400.70	469.85	0.00	0.00
汚泥(その他)	104.04	104.04	26.89	24.08	53.07
廃油	179.14	179.14	78.18	99.60	1.36
廃プラスチック類	32.21	32.21	18.05	4.68	9.48
金属くず	5.03	5.03	5.03	0.00	0.00
廃酸	1.83	1.83	0.00	1.83	0.00
廃アルカリ	131.01	131.01	8.18	122.71	0.12
ガラスくず、陶磁器くず	7.30	7.30	5.28	2.02	0.00
木くず	2.79	0.00	2.79	0.00	0.00
がれき類	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	933.20	861.26	614.25	254.92	64.03

(これまでに実施した取り組み)

令和5年度も、余剰汚泥(脱水汚泥)の埋立量ゼロを維持した。

平成25年度、平成26年度に、2基の廃水処理施設の曝気槽を順次表面曝気から散気管方式に変更した。これにより余剰汚泥発生量が低減されている。

廃水処理施設で使用する凝集剤を変更し、余剰汚泥発生量の低減を達成した。

【目標】

産廃物の種類	全処理委託量(t)	優良認定業者への 処理委託量(t)	再生利用業者への 処理委託量(t)	認定熱回収業者への 処理委託量(t)	認定熱回収業者 以外の熱回収を行う 業者への処理委託量(t)
汚泥(余剰汚泥)	450.00	400.00	450.00	0.00	0.00
汚泥(その他)	100.00	100.00	30.00	30.00	40.00
廃油	150.00	150.00	68.00	80.00	2.00
廃プラスチック類	30.00	30.00	20.00	5.00	5.00
金属くず	4.00	4.00	4.00	0.00	0.00
廃酸	5.00	5.00	0.00	5.00	0.00
廃アルカリ	100.00	100.00	45.00	50.00	5.00
ガラスくず、陶磁器くず	2.00	2.00	1.00	1.00	0.00
木くず	3.00	0.00	3.00	0.00	0.00
がれき類	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	844.00	791.00	621.00	171.00	52.00

(今後実施する予定の取り組み)

廃プラ及び実験機器等の有価物化を推進。

産廃物の焼却処分を委託する場合は、なるべく認定熱回収業者へ委託する予定。

主力製品の製造プロセス変更による廃棄物発生量削減の検討。